



クリエイティブシティTOKYOは、現代文化を象徴する「コンテンポラリーTOKYO」(オレンジ色)と、伝統文化を体現する「トラディショナルTOKYO」(ピンク色)を包含する。ループA、ループBからなる8の字型の動線を「TOKYOバタフライ」と呼ぶ。訪日外国人が日常的に使う動線として、LRTあるいはBRTを活用して整備する。

## クリエイティブ・クラスターの形成

クリエイティブシティTOKYOの実現に向けて、最も重要なのが「クリエイティブ・クラスターの形成」だ。クリエイティブ・クラスターとは、クリエイティブ分野の企業、プロフェッショナル、教育機関などが、分野ごとに特定地域に集積し、イノベーションが活性化している状態を意味する。

クリエイティブシティTOKYOは、現代文化を象徴する「コンテンポラリーTOKYO」(上のマップではオレンジ色)と、伝統文化を体現する「トラディショナルTOKYO」(同ピンク色)を包含する。

コンテンポラリーTOKYOを代表するクラスターは、渋谷・原宿・表参道(ファッション)、秋葉原(サブカル)、六本木(アート)など。

一方のトラディショナルTOKYOは、浅草・両国・日本橋などが代表例だ。それぞれの街で、世界の才能を起用して象徴となるプロジェクトを実施する。そして、世界から才能とファンを引き寄せる「聖地」となることを目指す。

東京は世界の主要都市と比べて面積が広く、ファッション、アート、エンターテインメントなど様々なコンテンツが東京各地にモザイク状に分散している。この懐の深さが東京の魅力であることは確かだが、一方で外国人観光客にとって観光しづらい都市でもある。それぞれの街の個性を際立たせることは、インバウンド観光促進に大きなメリットがある。同時に、関連する企業群の集積は、各分野の産業の活性化、世界での競争力の向上にも大きく寄与するはずだ。

それぞれの街を象徴するプロジェクトとして、下記を提案したい。

### ①原宿・渋谷から、ストリート文化を世界に発信

渋谷の円山町(道玄坂周辺)には、風営法の規制強化で存続が危ぶまれるラブホテル街がある。これらのホテルを、米エースホテル(シアトル発のデザインホテル・チェーン)のように、若手アーティストを起用したリノベーションでブティックホテルに再生したい。

ファッション文化をアーカイブする観点から、日本のファッション・素材産業と、関連するストリート文化の歴史を一覧できる「ファッション・ミュージアム」の設立も提案したい。

裏原宿と渋谷を結ぶ動線であるキャットストリートは、個性的なショップが並び、原宿・渋谷のストリートカルチャーの発信源と言える。このストリート周辺では、屋台村の設置、路上パフォーマンスの奨励などを通じて、徒歩で楽しめるエリアとしての魅力をさらに高めたい。

また原宿では多言語対応の「kawaiiディレクターズ」を結成する。国内外からの訪問客に対して、ショッピングやファッション・コーディネートアドバイスをを行いながら、街をガイドするチームだ。原宿のストリートを背景に、世界のファッション愛好家がソーシャルメディア発信をすることで、TOKYOファッションの発信力アップも狙いたい。



(collage: Namie Osaki)

## ②秋葉原をアニメ・コスプレのアミューズメントパークに

サブカルチャーの聖地Akibaも、原宿・渋谷と同様に、街に点在する既存のコンテンツを活かしてさらなるパワーアップを図る。街全体を一つのアミューズメントパークと見立てて、訪問客に対するナビゲーションの仕掛けを工夫したい。

具体的には、秋葉原のメイドカフェやコスプレショップなどと提携し、メイドやコスプレイヤーが街を案内する訪日客向けツアーを組成する。アイドル劇場、メイド喫茶、ガンダムカフェ、アニソンDJクラブ、フィギュアショップ、電気街などの豊富なコンテンツの中から、訪問客の趣向に合わせて組み合わせるツアーだ。街を周遊する移動手段としては、近未来イメージの小型電動自動車やスクーターを用意し、コスプレイヤーのガイドが運転手を務める。アニメ・コスプレの街Akibaを、エンターテインメントとして体感させる仕掛けだ。

## ③竹芝にコンテンツ産業の集積を